

明治四十二年 紀元二千五百七十年
 本紙 一枚金三錢 六個月金卅五
 定價 金貳圓 壹個月金貳圓 六個月金卅五
 金貳圓 壹個月金貳圓 六個月金卅五
 月曜日及大祭の翌日は休刊（月報）
 廣告 五號活字十七字一行一回金
 料金 五十錢 報報特別廣告五號活
 字十七字語一行金七十五錢
 發行編輯人 高木久馬 太
 印刷所 小松屋（電話六八三）
 京城西番西小門外
 發行所 京城新報社

段の採用に出づべきや勿論なり、獨逸の對蘭政策は球上殆んど類例なき同化主義の實行に腐心せり、獨逸は波蘭壓迫の爲に多數の農業を移殖せん事に焦慮し、過去二十年間國庫金を支出する

務省に於ては日露兩國の間に醫師互
 に談判を締結すべく調査中なりしが近
 來外交問題多端のため比較的重大な
 る本國の如きは後退し其の姿となり
 の後、調査一向に進捗せず從つて内
 務省との交渉の如きも未だ一回もな
 ざる由なるが外務省にては四十七年
 の改正定期に際し之れを調むるの方針
 しも事務多忙なると露國とは條約
 改正すべきものなるとにより左程急
 立てす期を見て談判を試みべしと云

釜山通信

反對、對東上員 本邦に於
對連、聊のため過日來協
十六日、商業會議所に開
を協議したる結果長谷
する事に決定したりと
會社總會 二十六日登
二期株主總會を開きた
七千圓余なりと云ふ
民の招宴 今同專管居
るに依り清國居留民一
に釜高等官を招待し盛大

二十三年
九月八日

民團樓上に於て新年宴
 會として福引等ありたり
 例の軍人流無邪氣に頗
 り
 昨年中に
 沙渡航の減少
 頗る者は五百九十七件にし
 較し約百年減少したりと
 年來年々幾分の減少を
 向なるがこは浦港に於て
 上のためなるべし
 陳謙算編成 民團理事者
 陳謙算編成 民團理事者
 算編成中なりしが昨日漸
 約六萬圓なりと

第卅三席 邑井一

別に珍銭もありませんが、一昨
九日の宿で膝に呉れたことがあり
た正「ウム何様な事ですな」甲「ま
外でもありませんが、此先きの倉
三云々宿に興助と云ふ十七の若者
が家の娘が、段々儲蔵して田畑出
資、興父は中氣で三年越に疑
き、卒の興助が毎日「馬を曳
働かぬ駄賃を取つて親を養つて居
る」孝心なのでも近所で誰一
の代官の家で密された小判ださう
武士と云ふが盗んだに相違ない
武士が其興助に嫌隙が持つて現
居へ入れられ、親父は村の者の情
義命を察して居ると云ふ情けない
倉野近所の人も何うか救つて
ことはあるまいかと心配して居る
ことが、何にしても大金の紛失した
ゆゑ、其金が出ないうちは何らす

ことも出来ず、又其金を立替へて救ふこともならず誠に氣の毒である。近所での評判でございます。」正「オ、夫れは可憐なことですな、宜しい、夫れは可憐なことだ何んぞ助けてやることにしよう」エツ、お前さんが其救助を助けてやんならば、強慾非道の人で、容疑などで助けられるものではない、其賊の家を探出すが又は其盗された金を立替へなければなりません。」正「其金と云ふのは、何の位なんですか」甲「彼も五十兩か云ふ話であります」正「ハア、五十金です、其れのことなれば何うにかならんことも鍛冶の神と仰かれて居る人だから、貴方さんが名高い正宗さんでござんた、夫れはよく初めに目に掛ります」初めに目に掛ります可笑しい、餘程猖獗して居やがる。正「私ども今五十金と云ふ持合せはないが、鎌倉へ歸れば其位のことでは何うでもなる、夫れをして私の腰に差して居る刀を一時代官さんへ預け置いて置いて、兎に角其の救助とやらを助けてやりたいと思ひます。」夫れはく御奇特のことでございます、正宗さんの御刀と云へば、化物と同様で見たことがないやうかく頼みたいものでございます。正「イヤさういふ聲めにも預つては悪入る

「らめ心して見て居る。正一言に刀
治」云ふが、なか／＼容易なるもの
ない、況て相州の水の悪い所だ
らなかく、鑛の骨が折れる、ま
自慢ぢやないけれど、私は湯
云ふものを工夫して、十の妙所、
三種の湯云ふものがある。」

やちふ

金高力の孝に拘はらず十二
分の御便利と圖り迅速御相
應に應ず貨物は町事に取扱
極めて安全に一定の場所に
保管す

京 城 曙 町

大機商行質部

流質品と雖も場所の許す如
可成長及期間大切に留保し
萬遠達なきを期す

御料理席貸
和樂園 **高田家**
(電話九三七番) 米倉町

○料理は萬事御手輕にして高岡
○國內は至各團靜にして別世界
○土地高嶺にて見晴し京城一
○大廣間の致備も有之候
又は宴會等に適當な候

滋養と牛乳
純良
牛乳
京城東四軒町
岡野牧場
電話壹六九番

衛生と消毒
入 院 隨 意
小兒外科
梅毒淋病
院長 陸軍軍醫正 高井 貞治
電話二一六

味の素

味の素 和洋料理は勿論
一般の家庭料として日常
欠可らずの品で、経節や
数布の襪、色々面でも手
敷に入らずに、これでも即
座に用ひ得る、又調法及
經濟的調味品であります

定價 一瓶 四十五錢
他地方へ引換小包にて送
ります

總店 特約店
京城 辻 屋
電話 二四八番

<p>中村耳鼻咽喉科</p> <p>傳國領事館 入院隨意 赤貧者施療</p>	<p>診察 自午前九時 至午後五時 每月一日休業</p>	<p>株主 韓一銀行 七期營業報告</p>	<p>貸借對照表</p> <p>負債之部</p> <p>(自陰曆三年七月一日至同十二月卅一日)</p> <p>資本金 五〇〇、〇〇〇 諸預立金 二四、〇〇〇 未受按配當金 五三九、八九二・二三</p>	<p>定期任金 二五〇、〇五九・三三 無期任金 一八四、三一九・四〇 小額任金 八八、三四一・四〇 任意手形 一一、七八〇・〇〇 別段任金 四、三八〇・〇〇 他店より借入 二〇、七七五・三八 當舖純金 七、五三八・〇〇 前半年の越金 二、八六三・一四 合 計 一、〇八七、八一〇・五一</p>	<p>資產之部</p> <p>辨別未完資本金 一〇七、八二二・四六 仕出金 一二六、七三八・二五 貸附金 三三七、八九五・四七 無期過渡撥 三九三、一九九・〇〇 有價證券 六六二、五〇〇・〇〇 什器屋敷 一、九六八・一八 什器 六二、一〇七・五一 合 計 一、〇八七、八一〇・五一</p>	<p>損益計算</p> <p>一金三萬九千三百五十七圓十八錢 本期總益金 一金二千八百六十三圓十四錢 前期繰越金 合計四万二千二百二十圓三十二錢內 前期繰越金 一金一万九千二百八十五圓三十八圓 本期繰損金 計餘 殘金二萬二千九百卅四圓九十四錢 本期總益金</p>	<p>此配富計算左の如し</p> <p>金三千圓 準備積立金 金四千圓 別途積立金 金六千二百五十圓 株主配當金 金二十七圓 役員賞與金 金七千六百七十七圓 後期繰越金</p>	<p>右之通りに候也</p> <p>株式會社 韓一銀行</p>	<p>頭取 趙乘澤 専務取締役 白寅基 取締役 白周鉉 取締役 朴秉鎭 支配人 劉秉鎭 取締役 金鎮玉</p>	<p>前記の各項を調査し其正確なるを保證する</p> <p>監査役 裴東柱 監査役 金時欽</p>
--	--------------------------------------	---------------------------	--	--	--	---	--	---------------------------------	---	---

本店電話二四八

仁川岩崎民校及
會頭は目下坂神間に

一等 八八〇 切込 八八〇
二等 八八〇 粉炭 八八〇
三等 八八〇 切込 八八〇
四等 八八〇 粉炭 八八〇

如し(單位) 切込 八八〇
粉炭 八八〇

二月十七日東京商業會議所に於て開會
の韓國銀行第一回株主總會は出席
市原總裁及木村理事は既報の如く二月
七日市原總裁は「本當地の開發上」の由
廣通銀行に於て福島將軍の款項を引け
るに當り、昨二十日午後七時より、
農商工部に於ては其役員も客内定し居
る。別項女子產業講習所官制の裁可に付き
農商工部に於ては其役員も客内定し居
る。別項女子產業講習所官制の裁可に付き

●韓筆重役の東上期
天下附す。韓人の將軍歡迎會
●講習所役員の内定
發布したるに基くものなりと

●叙任辭令
廿二日付を以て參政局
々長以下左の如く任命たり
度支部書記官臨時財源調查局
主任委員兼書記官 上林敬次郎
主事 書記官 上林敬次郎

●壯年重役木村氏の言ふが如く韓國銀
行は純然たる韓國の銀行にして我帝
國政府と何等交渉を有せず、從て重
役の意見に因りては何時にても獨立
するに足るものと欲するもの爲めに其調査研究の
結果を報告する

●滿州刺の開幕
本日

